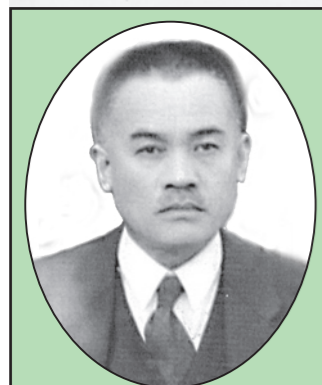




随神門銅板葺き替え記念（昭和38年10月20日）



児島熊吉氏

随神門の改築にあたり多額の奉納で功績のあった児島熊吉氏。早島町出身で、青島（中国）在住であった同氏は昭和十一年十二月に改築された荒神社（早島町船本）の拝殿改築にも多額の寄進をしている。

納所 浩 随神門残材の花台裏に記す

**随神門改築の逸話**

昭和十一年の改築にあたっては、旧随神門（天保十年）が老朽化により倒壊の恐れが出て来たため、昭和七年八月に解体し、吉備津彦神社の随神門を模倣すべく実測検分を行い、改築費用を五、〇〇〇円とした。

早島町出身で支那（中国）青島居住の児島熊吉氏が改築費用として二、〇〇〇円を寄付したが、材木の調達費に四、〇〇〇円必要となり、計画は頓挫した。

丁度その頃、昭和五年に本殿、随神門、宝物殿を残して社殿全てを全焼した吉備津彦神社の再建が始まっており、工事監督として内務省神社局技手萩須佐兵衛氏が赴任していた。

氏に随神門の改築を相談したところ、氏は同神社局技師角南隆氏と学友であったため、設計を依頼頂き角南氏は快諾した。

角南氏は施行を京都の森田徳太郎に依頼し、材木も同質の物が一、八〇〇円で仕入れる事ができ、昭和十年七月起工祭、同十一年五月十日上棟祭を執り行った。

昭和十一年五月十一日



檜皮葺きの随神門改築竣工記念（昭和11年）

すなみ たかし  
**角南 隆**

明治20年倉敷市児島で生誕。大正4年に東京帝国大学建築学科を卒業し、同5年明治神宮造営局嘱託。同6年には同局技師となり、大正8年から昭和21年までの28年間内務省技師（神社局）神祇院技師と神社建築行政に携わり、戦後も昭和55年に93歳で死去するまで、一貫して神社設計を行っている。

特に大正末期から昭和戦前にかけては日本における神社建築の実質的な指導者であり、昭和14年神社局に造営課が新設されたとき初代課長に就任している。

角南氏が設計を手掛けた主な神社は、「昭和3年」吉野神宮（奈良県吉野郡吉野町吉野山）、「昭和15年」近江神宮（滋賀県大津市神宮町）、「昭和15年」橿原神宮（奈良県橿原市久米町）、「昭和15年」平安神宮（京都市左京区岡崎西天王町）等多数あり、海外の樺太神社、台湾神社、南洋神社などの設計指導も行った。



随神門改築竣工記念での散餅行事（昭和11年）